

自然破壊 昔から危惧

文人の
武蔵野

1951年4月、手塚治虫(1928〜89年)は「アトム大使」(後の「鉄腕アトム」)の連載を開始します。敗戦国日本が独立国家となろうとしているときでした。予告編には「科学万能時代の五十年後の東京」という舞台設定が記されています。このとき手塚は大阪の医学生でした。

手塚治虫 ②



トキワ荘の再現施設
「豊島区立トキワ荘マンガミュージアム」

二の地球の人間との間をとりもつ物語です。平和のためにみずからの頭部を宇宙人側に差し出すアトムの姿に、連載中に締結されたサンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約の哀切を重ねた読者もいたでしょう。

52年、手塚は上京します。トキワ荘(豊島区)に入居す

るのが翌53年の1月。同年5月には「鉄腕アトム」として「赤い猫の巻」の連載を開始します。

手塚は「科学」に戦後日本の復興の可能性をみていました。「赤い猫の巻」にも、アトムが誕生する21世紀の「大東京」が描かれています。「科学万能時代」の大東京は、武蔵野を侵略し自然を破壊していました。武蔵野を愛する動物学者は政府に訴えますが、建設省の幹部は仕事を進めます。激怒した動物学者は「赤いネコ」に扮したマッドサイエンティストになります。総動員された動物たちは、銀座から皇居前広場に向かって動物デモを繰り広げ、巻き込まれた子どもたちを救うのが鉄腕アトムでした。

手塚の描いた東京と武蔵野

の危機的な関係は、人間と自然の関係の未来の姿です。それはトキワ荘の生活から幻視された光景でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「まんが道」

そのスケールと影響力において、尾崎士郎『人生劇場』や五木寛之『青春の門』とも並ぶ自伝的長編作品の傑作です。藤子不二雄少年が兵庫・宝塚で手塚治虫に初めて会う場面とトキワ荘で再会する場面は鮮烈です。かつての文学の役割も担うことになる手塚らの漫画は、児童文学者たちから敵視されました。時代と格闘しながらも漫画は「道」となりました。



(藤子不二雄A、小学館クリエイティブ)

武蔵野



武蔵野支局 〒180 0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.co.jp
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

10月20日(木曜日)
旧 9月25日<先負>

あすの暦

通日 293
月齢24.2
(正午)



＝東京標準＝
満潮 0.10
日入17.00 14.53
日出 5.51
月出 0.13 干潮 7.21
月入14.34 20.57
(長潮)